

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	熊本外語専門学校
設置者名	学校法人 辛島学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
教養専門課程	英語科	夜・通信	192 授業時数	80×2 160 授業時数	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	熊本外語専門学校
設置者名	学校法人 辛島学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kfla.ac.jp/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元私立高校校長	2019.7.12 ～ 2022.7.12	学園の進むべき方向に対するアドバイス
非常勤	医師	2020.3.9 ～ 2022.7.12	学園の進むべき方向に対するアドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	熊本外語専門学校
設置者名	学校法人 辛島学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 運営委員会により、カリキュラム・シラバス・評価規定を検討し決定する。それにもとづき、各学科の教員間で到達目標を設定し、それをもとにテキストを選択し、年間(科目によっては半年間)の授業計画を策定する。語学科目については四技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)の円滑な習得に向けて、テキスト選択において、また授業においてより有効な結果につながるよう教員間で検討し調整する。原則的に英会話・中国語科目・韓国語科目・仏語科目においてはネイティブ教員が担当し、その他の教養科目・検定科目(英検対策、TOEIC対策など)などを日本人教師が担当する。尚、語学以外の科目も含め、学生へのアンケート等を通じて毎年、科目、授業内容、テキストの見直しを行っている。シラバスはホームページを通じて4月に公表している。	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については、原則年に2度の定期試験(前期9月、後期2月)により、その時点での学修成果を測定し、後期試験終了時に両定期試験の各科目の平均点で、年度の最終評価を行う。尚、評価点には出席点も含めるが、その際の比重は試験90%、出席10%であり、客観的に、適切に評価を行っている。尚、原則として、各科目は試験によって学修成果を測るが、試験に代えてレポートを課す場合(例、インターンシップ)もあり、その際も複数の教員で評価し、適切な評価を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  
 本校は2期制で、各学期末に定期試験を実施する。履修科目の成績評定は、定期試験および授業等の学習活動（取り組み、提出物、小テスト等の科目担当者による評価）を90%、出席状況を10%とし、100点満点で評価する。1各科目を評価した点数をGPに変換、GPの平均（GPA）を算出する。各学期の定期試験等の点数を平均した点数が学年の成績となる。成績評価とGPAへの変換は下記の通りとする。

成績評価	S	A	B	C	D
点数	90点～100点	80点～89点	70点～79点	60点～69点	59点以下
GP	4	3	2	1	0

これらの指標についてはホームページで公表している。再・成績の分布状況を上記の指標により、適切に把握している。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<https://www.kfla.ac.jp/disclosure/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)  
 本校においては、英語・中国語・韓国語・仏語と、その語学力を活かした観光、航空、通訳に関する技能と、豊かな国際感覚を身に付けた人材の育成を目的としており、以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めている。卒業認定は、学則第17条1項、教育課程に定める所定の時間在学习し、英語科106単位の取得と、その全ての科目においてC以上の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則の他、学科履修要項に規定しており、学生の卒業認定については、これらの規定に従い適切に実施している。本校ディプロマ・ポリシーについては、ホームページで公開している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.kfla.ac.jp/disclosure/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	熊本外語専門学校
設置者名	学校法人 辛島学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>
財産目録	<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>
事業報告書	<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		教養専門課程	英語科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	1,728 単位時間	1,696 単位時間	736 単位時間	0 単位時間	96 単位時間
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		61人	0人	6人	20人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 運営委員会により、カリキュラム・シラバス・評価規定を検討し決定する。それにもとづき、各学科の教員間で到達目標を設定し、それをもとにテキストを選択し、年間（科目によっては半年間）の授業計画を策定する。語学科目については四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の円滑な習得に向けて、テキスト選択において、また授業においてより有効な結果につながるよう教員間で検討し調整する。原則的に英会話・中国語科目・韓国語科目・仏語科目においてはネイティブ教員が担当し、その他の教養科目・検定科目（英検対策、TOEIC対策など）などを日本人教師が担当する。尚、語学以外の科目も含め、学生へのアンケート等を通じて毎年、科目、授業内容、テキストの見直しを行っている。 シラバスはホームページを通じて4月に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 本校は2期制で、各学期末に定期試験を実施する。履修科目の成績評定は、定期試験および授業等の学習活動（取り組み、提出物、小テスト等の科目担当者による評価）を90%、出席状況を10%とし、100点満点で評価する。1各科目を評価した点数をGPに変換し、GPの平均（GPA）を算出する。

各学期の定期試験等の点数を平均した点数が学年の成績となる。  
成績評価とGPAへの変換は下記の通りとする。

成績評価	S	A	B	C	D
点数	90点～100点	80点～89点	70点～79点	60点～69点	59点以下
GP	4	3	2	1	0

これらの指標についてはホームページで公表している。再・成績の分布状況を上記の指標により、適切に把握している。

卒業・進級の認定基準

(概要)  
卒業の認定にあたっては、各科目の出席率80%以上及び、成績60点以上をクリアし、英語科106単位以上取得することが必要条件となっている。このことは、ホームページで公表している。

学修支援等

(概要)  
資格取得率(英検、中検、TOEIC、旅行業務の国家資格等)、就職率、進学率(大学編入)の向上を図り、退学率の低減に努めている。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
49人 (100%)	12人 (24%)	25人 (52%)	12人 (24%)

(主な就職、業界等)

(就職指導内容)  
最新就職活動情報やサイト登録方法を就職支援担当者からの直接指導。ハローワーク担当者との面談、業界出身者によるエントリーシートの添削、模擬面接。

(主な学修成果(資格・検定等))  
令和3年度英検準1級合格、TOEIC600点以上取得、中国語検定3級合格、国内旅程管理主任者取得、ハングル能力検定試験準2級、韓国語能力試験TOPIKⅡ4級、秘書技能検定2級、サービス接遇実務検定試験2級、赤十字ベーシックライフサポーター、日本情報処理技能検定試験

(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
95人	4人	4%

(中途退学の主な理由)  
就職、進路変更、体調不良

(中退防止・中退者支援のための取組)  
欠席が続いている学生または保護者に対して担任等が電話を掛け理由等確認。

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
英語科	150,000 円	645,000 円	100,000 円	
国際科	50,000 円	490,000 円	50,000 円	
日本語科	50,000 円	490,000 円	50,000 円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
特待生入学の学生及び、指定校推薦入学の学生に対しては、1年次を対象に授業料の減免が行われる。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) インターネット ホームページアドレス : <a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者委員会を設置し、学校自己評価の結果を客観的な眼で評価してもらう。主な評価項目は教育課程の編成、進路指導、運営方針、施設、設備、財務等である。5人の委員で構成し、卒業生、保護者、高校関係者、企業関係者である。評価結果は次年度のマネジメントシステムに生かされる。責任者には各担当者が就く。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
元公立高等学校校長	2021. 5. 7～2023. 3. 31	高等学校関係者
関連企業の元役員	2021. 5. 7～2023. 3. 31	企業関係者
関連企業の元社員	2021. 5. 7～2023. 3. 31	企業関係者
卒業生	2021. 5. 7～2023. 3. 31	卒業生
卒業生保護者	2021. 5. 7～2023. 3. 31	保護者
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページアドレス : <a href="https://www.kfla.ac.jp/disclosure/">https://www.kfla.ac.jp/disclosure/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

ホームページアドレス : <https://www.kfla.ac.jp>